

(1)



気づいた時は 何もかもおそかった  
 あれも これもが  
 借りつ放しの 日常であった  
 あの人も  
 この人にも  
 これほど  
 お返ししていないことばかりであった  
 数限りのない  
 お世話になっていた  
 ありきたりの  
 ただ ありがとうの  
 ひとつと限りですませきりであった  
 ようこれだけで すませたものと  
 身の毛のよだつ思いでありながら  
 すんでしまえば それまでだった



お返しを していなかったことばかりの  
 わがことだけの 日ごとであった  
 よくも こんな状態で  
 すませていることと 気付いてみても  
 要は あとのまつり でしかない  
 老いてみて  
 そのひとつひとつが とても大事であった  
 そのお返しのために  
 どんな事にでも  
 ただ ありがとう 言い続けたい  
 このほかに報恩の道はない

新  
 一  
 譚  
 バラード  
 歌



お盆号

「雲

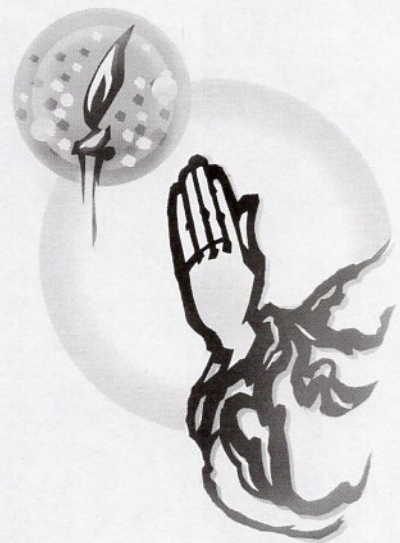
晴」第五十一号

令和六年七月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六-五  
 電話(〇三)三六二七-三四一五  
 FAX(〇三)五六九九-五九一五

② 報恩感謝 (恩のお返し)



# 唱歌のふるさと 童謡のくに ⑱

著：佐山哲郎

与謝野晶子は嘆く



ああおとうとよ、君は泣く  
君死にたもうことなかれ  
末に生まれし君なれば  
親のなさはまさりしも  
親は刃をにぎらせて  
人を殺せとおしえしや  
人を殺して死ねよとて  
二十四までをそだてしや

旅順包囲軍に参加せざるを得

なかつた弟を詠んだ晶子の歌は  
乱臣だ、賊子の危険思想とみな  
され、長く大衆の目にふれるこ  
とはなかつた。この歌が広く知  
られるようになったのは第二次  
大戦の後のことである。

さて、戦友もまた、歌うこと  
を禁ぜられた。  
四番が問題である。  
軍律きびしきかなれど

これが見捨てておかりようか  
しつかりせよと抱き起こし

飯包帯も弾丸の中

『軍律きびしき中なれど』が、  
けしからんというわけである。  
みだりに命令なくして負傷者  
の看護すべからず という軍規  
に違反するという。  
軍艦マーチと抜刀隊  
しかし、兵士たちはこれを愛  
唱し続けてきたのである。

# 華

花ひらひて  
實をむすぶ

好胤



⑦ 思い出す大切さ

高田 都耶子

親の意見と茄子の花は、千に一つの  
仇もない（茄子の花が咲くとすべて美  
をつける様に、親が子を思って忠告す  
ることは必ず後で役に立つ）

この諺を覚えてくれたのは村田のお  
ばあちゃん。幼い頃に一緒に住んでい  
た村田夫妻は元々京都の染め物商の店  
主だったそうです。ある年の大水で家  
もお店も流されてしまったのですが、  
虫の知らせというのでしようか大水に  
なると思ったおじいちゃんは隣り近所

に危険を触れ回ったところ「そんなア  
ホなことがあるかい」と目を傾けても  
らえず、結局二人だけが生き残ったと  
いうのです。家も店も流された二人は  
どんな縁だったのか、私の生まれた法  
光院という塔頭に住む事になりました。

二人は私を孫以上に可愛がってくれま  
したし、私も本当の祖母のように慕  
いました。夕食の後にその小さな部屋  
に行つて大好きなおじいちゃんの話  
を聞くのも楽しみでした。

食卓に茄子が上がる時など、おば  
あちゃんや件の諺を言いながら並べて  
いました。そして三重県桑名の焼き蛤  
をお土産でいただいた時にはいつも、  
「はいおじいちゃん」「その手は桑名の焼き  
蛤」やで」と焼き蛤の串を手渡ししてく  
れたこと、懐かしい思い出です。都耶  
子も覚えてもらいました。私が国語や

古文が好きだったのは、村田のおばあ  
ちゃんから口移しで教えてもらった言  
葉のせいだったかも知れません。

# 一口法話

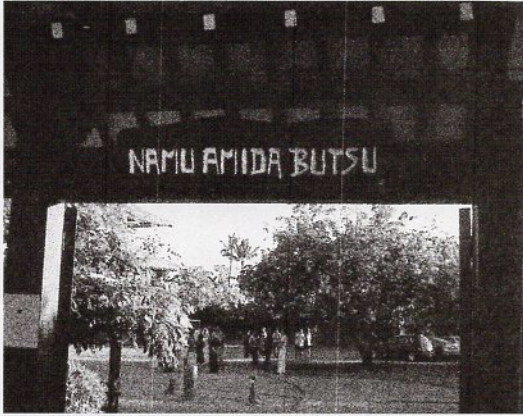


「喜足の心」

「知足」という言葉があります。

「足るを知る」という意味の言葉で  
す。衣食住で考えてみましょう。寒  
さ暑さをしのぎ、見た目もござつぱ  
りするだけなら、どれだけの衣服が  
あれば足りるでしょうか。体を維持  
し健康な生活をする為だけなら、ど  
れだけの食事があればよいでしょ  
うか。雨露をしのぎ一定のプライバ  
シーが守られるには、どれだけの住居  
が必要でしょうか。そう言われれば  
そうなのですが、やはりおしゃれな  
服、美味しいもの、広い家が気にな  
ってしまいます。現代は物にあふれ  
欲しいものが山ほどあり、欲望とい  
う煩惱により「知足」の心はますま  
す遠くに追いやられがちです。  
法然上人は「喜足」と言い換え、  
「足るを知る」のではなく「足るを  
喜ぶ」心を大切に説かれました。  
私はこのお言葉を「よかったことを

# 誘いの書へ



ところでグリム童話の「青い鳥」。幼いチルチルとミチルの兄妹が幸せの青い鳥を探しに行くお話です。結局幸せの青い鳥は自分の家に居たんだと気づいて終わるのですが、始めに行ったのは「思い出の国」でした。二人はこの国で、死んだはずのおじいさんとおばさんに出会いました。「人は死んでも、みんなが心の中で思い出してくれたなら、いつでも会うことができるんだよ」おじいさんは、そう言いました。この世で誰も思い出してくれなくなった時に、本当に人は死ぬのだと聞いたことがあります。あの世での一番の幸せは思い出して懐かしんでもらうことだそうです。「冥福」とはそういうことなのでしょう。私が大学生だった夏の日に祖父の五十回忌が営まれ、



親戚が集まりました。父親の五十回忌法要をするという事は、いかに父が幼くして父親を亡くしたかということ。 「お父ちゃんさえ生きてくれれば、こんな辛い修行をせんでも良かったの」と行く度も思ったそうです。私は高田貞明という祖父のことを写真でしか知りません。アルバムの中の祖父はお洒落でダンディな人なのです。法事の折、会ったこともない、抱っこされたこともない祖父ですが、父が手を合わせる後ろ姿を見ていたら、ああこれが私のおじいちゃんなんだという思いが湧いてきました。父に話したら、お前がそんな風に思ってくれたなら五十回忌して良かった、意味があったと嬉しそうに言った父の、今年はまだ十七回忌になります。

大切にしよう」と捉え大事にしています。あるお檀家でひそかに「よかつたおばあちゃん」と呼んでいる方がおりますが、いつ会っても、お話し下さる内容はよかつたことばかり。「天気がよくてよかつた」「おじいさんの好きなお花が買えてよかつた。」「駅で電車がすぐ来てよかつた。」そして、最後には必ず「今日もお寺に来られてよかつた」と。一日生活すれば嫌なことも沢山あります。でもよかつたこともやはり沢山あるのです。よかつたことを大切にすることこそ、お念仏の心「お蔭様」の心です。お蔭様という言葉を多く使える人生を送りたいと思います。

(総本山知恩院布教師会ホームページより)

## 「ナムアマミダブツ」

貞林院瑞正寺 住職 故林 錦洞書  
山門の額にローマ字で書かれた「ナムアマミダブツ」はハワイ

のマウイ島にある浄土宗ラハイ

ナ浄土院の入口に掲げてあったもので、先代林錦洞が揮毫したものです。昨年八月にラハイ

ナの街が山火事により甚大な被害を受けましたが、このお寺も本堂、庫裡、三重の塔、鐘楼と全焼してしまい、残念ながらこ

の山門と額も焼滅してしまいました。ご住職の原源照上人とは先代からのご縁で約五十年以上のお付き合いとなります。

明治時代の移民政策でハワイには沢山の日本人が移住をし、砂糖きびやパイナップル畑の開墾など過酷な労働を担ってきま

した。そのため各宗派の僧侶も開教師としてハワイに渡り寺院を建立するなど、現地の人々の心の支えとして活動してまいりました。このような歴史的な背景

があり、マウイ島の文化的遺産とも言えるこのお寺が焼失してしまつたことは誠に残念でなりません。

現在は街の再建や復興計画もまだ具体的なものがないようですが、お寺の再興に向けて徐々に動き出しているようです。

これから先何年かかるかわかりませんが、いつしか再興されたいラハイナ浄土院にまたお参りできる日が来ることを心より願っております。

## 七月・八月のお盆法要

本年のお盆法要は次のとおり行います。五月のお施餓鬼と同様に今回より従来通り本堂内での法要といたしますので、どうぞご参列ください。毎年お参り頂いている月のお盆にそれぞれご来山頂きお参り下さい。

### ○七月お盆法要

七月十四日（日）午後二時より

### ○八月お盆法要

八月十三日（火）午後三時より

八月盆「お棚経参り」の中止について

\*八月のお盆は毎年お棚経参りにお伺いしておりますが、本年は三郷地区・金町地区が対象となりますが、実施につきましては、今年も見送りたいと思っておりますのでご了承ください。

なお新盆のお宅についてはご希望があればお伺い致しますのでお早めに寺までご連絡下さい。

### \*令和六年施餓鬼法要の報告\*

毎年五月十四日は当山の施餓鬼法要ですが、今年も堂内で大勢の檀信徒の方々とともに法要を行うことができました。

本年は布教師さんによる法話の代わりに、東京消防庁の救急隊長であります野々口範一氏に講演を頂きました。

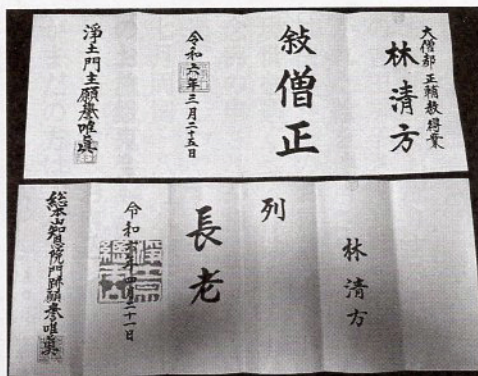


「モニターを使っでの説明は大変好評でした」

能登半島地震など近年は自然災害も多いため、その緊急対応について、またコロナ禍での救急搬送などの経験から日常での健康管理などについて分りやすくお話を頂きました。終了後も熱心に質問されている方もおり大変有意義なものとなりました。

### 浄土宗僧正並びに総本山知恩院長老待遇の叙任について

本年四月に住職が僧正となり大本山増上寺にて叙任されました。浄土宗では僧侶の位には七段階あり、大僧正は大本山のご法主だけに与えられるもので、次に正僧正があり僧正となります。これは僧籍を取得してからの年数だけでなく、これまでの各本山への寄進や勸募金などの功績が認められたものであり、これも檀信徒の方々のご協力の賜と感謝しております。また知恩院長も長年の知恩院に対しての功績が認められたもので、特別待遇者として同じく四月に知恩院において叙任されました。浄土宗開宗八百五十年という勝縁にこのような機会を頂き、これを励みに一層精進したいと思います。



「総本山知恩院門跡より頂いた叙任証と功績状」